

# 一杯のコーヒーから、いっぱいのお笑いを

プロジェクト代表

慶応大学 総合政策学部 4年

森谷 真樹

## マヤビニック・コーヒープロジェクトとは？

マヤビニック・コーヒープロジェクトは、メキシコ研究者である慶応義塾大学山本純一教授が2001年、コーヒー生産者組合、マヤビニックと出会うことで始まりました。

マヤビニックは、メキシコ・チアパス州の高地に住む先住民達のコーヒー生産組合で、彼らの生活は、チアパス先住民の常であるように、極めて貧しいものでした。

また、詳しくは後述しますが、1997年に彼らが受けた虐殺は、あまりに痛々しいものだったのです。

帰国した山本教授からマヤビニックの話聞き、興味を持った山本ゼミの学生によって、マヤビニックのコーヒーを日本にフェアトレードする試みが始まりました。

そして今年、2003年から、このマヤビニックとのフ

エアトレードを試みる活動は、山本教授の担当する正式な研究プロジェクト（ゼミ）となったのです。

現在、私たちの研究プロジェクトは「一杯のコーヒーから、いっぱいのお笑いを」というキャッチコピーの下、

①「定義が曖昧なフェアトレードとは何か」、「フェアトレードは生産者の自立に本当に有効に機能しているのか」といった疑問に対して研究を行うこと、

② マヤビニックのコーヒーを置いてくださるお店を探し、協力してビジネスを行うこと、

を目的とし、活発に活動しています。

## メキシコ・チアパス州はどんなところか？

プロジェクトの概要を掴んでいただいたところで、次に

マヤビニックのあるメキシコ・チアパス州とコーヒーの関係についてご説明させていただきます。

メキシコは、日本のコーヒー（生豆）国別輸入量においては、第8位の国。2002年には、9,589トンを経済圏へ輸出しています。

メキシコのコーヒーはその品質の高さだけでなく、有機栽培が盛んなことでも知られています。第三者機関によって有機認定（1967年）された世界で初めてのコーヒー

メキシコ合衆国の地図



農園もメキシコにありますし、現在でも有機コーヒーの収穫量は世界一です。

中でもチアパス州は、12万人ものコーヒー生産者を抱える最大のコーヒー産地です。

地味が豊かであること、労働力となる先住民の多いことが、チアパス州のコーヒー生産を支えています。

## チアパス州における先住民の歴史と現状

コーヒー生産を支える先住民の歴史は、現在に至るまで苦難の連続でした。人間としての尊厳や権利を無視されてきた彼らは、これまでも何度となく権利回復を訴えてきました。その活動の多くは無視され、潰されてきたのです。

最近では、先住民の権利回復を求める団体である「サパティスタ」が活発に活動しており、多くの先住民から共感

を得ています。

そして、このサパティスタの運動と、マヤビニックの設立経緯は密接に関わっているのです。

## マヤビニックの設立経緯

マヤビニックは、1999年、マヤ系ツォツィル族の先住民共同体「ラス・アベツハス」の内部に設立されました。

おりからのコーヒー危機によってさらに苦しさを増した生活から脱する活路を見出すことを目的とし、現在では、標高 1,200 m ～ 1,800 m の村々に住む700のコーヒー生産家族が参加しています。そのマヤビニックを語る上で忘れてはいけない事件が、1997年12月22日に起きています。

この日、「アクテアル村」(現在のマヤビニックの中心地)の教会に集まっていたラス・アベツハスの人びとを、黒ず

くめの武装集団が襲い、銃を乱射したのです。妊娠中の女性のおなかを裂き、胎児を取り出すなど残虐な行方も行われ、幼い子供も含む、45人も命が奪われました。

虐殺された45人を祀る教会



州政府の発表によれば、この事件は「先住民同士の争い」とされています。

しかし、国際人権団体の調査などによれば、この残虐な事件を指揮したのは、実は州政府である可能性が非常に高

いのです。

当時州政府は、活発だった「サパティスタ」の動きを抑えるため、資金をばら撒き、政府寄りの先住民を「準軍事組織」として保持していたといわれています。反政府思想を持つ人間を州政府に報告させたり、州政府の秘密裏の武力行動に利用したりするためです。

この「サパティスタ」先住民と「州政府」準軍事組織(政府寄りの先住民)の対立軸に対し、ラス・アベツハスは中立の立場をとっていました。皮肉なことに、この中立の立場がアクテアルの悲劇を招いたと考えられるのです。

つまり、アクテアル事件は州政府が指揮し、準軍事組織に行わせた「見せしめ」だった可能性が高いのです。ラス・アベツハスの人びとを、あえて無残に殺す。そうすることです。サパティスタ側につく先住

民はもちろん、中立を守る先住民達に「お前達だって、いつこうなってもおかしくないのだぞ」というメッセージを送ることが出来るからです。

このことを裏付けるように、アクテアル村から500mも離れていないところには、州政府の施設があります。5キロもの葉きょうが残され、5時間も続いた銃撃の音が、州政府の施設に聞こえないはずはありません。虐殺が州政府によって行われたと考えるには、充分すぎる状況証拠ではないでしょうか。

## フェアトレードは、なぜ必要なのか？

政府の機能とは本来、国民全ての平等な権利を保障することです。

しかし、コーヒーの生産国政府の多くは、その機能を果たしていません。

それどころか現実には、ア

クテアル事件に象徴されるように、自らの利益のために少数派の人びとを虐殺するような政府も存在するのです。

この現状を認めてしまうことは、「どの」国民を生き延びさせるか、「どの」国民を苦しめるのか、その権利を政府が持つことを認めてしまう、ということなのです。

しかし、このような権利が政府に与えられてよいはずがありません。私たちのフェアトレードは、これらの不平等な現実を改善し、「人間は皆平等であり、チャンスは平等に持つべきだ」という目標に向かって進む、一つのアイデアなのです。

（私たちのフェアトレードが、具体的にどのような生産者を支援するのかは、次号の連載で詳しく述べたいと思います。）

## マヤビニツクのコーヒー

マヤビニツクは、フェアトレード国際団体からの紹介を受け、2000年よりスイス、アメリカの団体とのフェアトレードを始めました。

この経験から人びとは、品質の高いコーヒーを作れば、これまでよりもはるかに高い収入を得られることを学びました。

彼らは、私たちでは立つのもやつとの斜面に育つコーヒーの木を、1本1本、丁寧に世話をします（ティピカ・カツーラ・ムンドノーボ種）。コーヒーの木は、バナナやアボガドなどの背の高い木をシェードツリー（日陰樹）として育ちます。

また、マヤビニツクのコーヒーは有機栽培で、農薬は一切使わず、バナナの葉、コーヒーの実の果肉、落ち葉、し尿、石灰から作られた肥料を与えます。

## 有機肥料を作るコンポスト



有機管理に関し、マヤビニツク組織内に有機部門があり、実際に現地に行った私たちが驚くほどの厳しい管理を行っています。また現在、メキシコの第三者有機認証団体からの検査を受けており、2005年には認証がおりる予定です。

チェリーの収穫は、完熟した豆だけが、丁寧に手で摘み取られます。

また、チェリーの精製は、

各農家で果肉除去・発酵過程を経た後、天日乾燥を行っています。

## 自家焙煎店の皆様と「作り上げる」フェアトレード

スイス、アメリカの団体とのフェアトレードによってマヤビニックの人々の生活には、わずかながら向上の兆しが見え始めています。

とはいえ、まだまだフェアトレードが重要であることに、変わりありません。例えば、ほとんどの村には水道・排水設備が整っておらず、胃腸系の病気を患う子供は後を絶ちません。衛生環境の確保は緊急の課題の一つです。

しかし、このような問題を、研究機関である大学がいくらか叫んだところで、現状を変えることは出来ないでしょう。

このような問題を、私たちは、自家焙煎店の皆様に協力していただき、ビジネスとし

て解決していききたい、と考えています。つまり、マヤビニック・コーヒープロジェクトは、大学と自家焙煎店が協力する、「産学連携」のプロジェクトなのです。

産学連携により、大学側はフェアトレードについて、より深く研究することができま

す。そして、大学がその研究成果や現地情報を提供することで、「ストーリー」性があり、タイムリーに現地情報提供がなされる豆」を自家焙煎店に提供できると考えています。

さらに、詳しくは次号で述べますが、私たちのプロジェクトは、企業・お店の方々にコーヒーを買っていただくためのプロジェクトではありません。

「どのような」フェアトレードをしていくのかを、大学と自家焙煎店の皆様、さらにはコーヒーを買ってくださる

お客様の間で議論し、作り上げていく「進行形」「参加型」のプロジェクトにしたいと考えています。

マヤビニック・コーヒープロジェクトは現在、生豆商社「アタカ通商株式会社」からのご協力をいただき、2004年4月以降、ニューヨークを日本に輸入する予定です。マヤビニック・コーヒープロジェクトについてご興味を持ってくださった方は、私森谷、アタカ通商上吉原まで、御気軽にご連絡ください。

マヤビニックコーヒーの生豆サンプルもお送りしています。



マヤビニック・コーヒープロジェクトに関する詳しい情報、お問い合わせは以下まで。

マヤビニック・コーヒープロジェクト

HP: <http://mayavinic.sfc.keio.ac.jp/> メール: [fair-trade@keio.to](mailto:fair-trade@keio.to) 森谷まで  
アタカ通商株式会社

HP: <http://www.specialtycoffee.jp/> メール: [info@specialtycoffee.jp](mailto:info@specialtycoffee.jp) 上吉原まで